

頭とハートがつながって いる人がグローバル人材

文 化的に日本の型にはまってしまう人は世界では通用しない。典型例が「本音と建前」。本音と建前が違えば政治家でも経営者でも信頼されなくなる。私が知るかぎり、欧米やアジアのトップリーダーが1対1で話すときは本音をさらけ出す。世界銀行の副総裁としてそうした場に何度も立ち会ったが、本には書けないことが多くある。日本の政治家は本音と建前を使い分けることで、国際的な信頼を失っている。

日本に必要なのは、いったん日本から出れば、羽目を外して開放的にものを言える人。そういう人は共通して、情熱と自分の知識や経験に対する自信を持っている。私はよく「頭とハートがつながっている」と表現するが、そういう人こそが、グローバルに通用する人間だと思う。

グローバル人材の代表は ブータンの雷竜王4世

ただ、日本人の魂は忘れてはいけない。たまに変な日本語しか話せなかったり、敬語を忘れてたりする人がいるが、そういう人はグローバル人材としては失格だと思う。母国語の力が落ちると、英語も下手になる。日本語や日本の文化、歴史をきちんとわきまえるとともに、日本の組織の中でも通用する人間でないといけない。そのうえで、外国で仕事をするときには、相手に対する思いやりを持ちながらも意見をきちんと言える人、いい意味での二重人格を



前世界銀行 副総裁

西水美恵子

にしみず・みえこ ● プリンストン大学助教授を経て、1980年世界銀行入行。97年から7年間、南アジア担当の副総裁を務めた。経済学博士。

持っている人が望ましいと思う。

グローバルに通用する人材の代表だと思うのは、前ブータン国王の雷竜王4世。真っ正直で言動一致。謙虚で動的な寛容さを持っておられる。

かつて陛下に謁見したとき、9.11の話題になり、陛下がアフガニスタンのことを「野蛮な国だ」とおっしゃった。そのとき私は「ブータンが野蛮だったのもそんなに昔のことではないですよ」と申し上げた。言った後に「しまった」と思ったが、陛下は「それもそうだな」と納得してお笑いになった。

絶対権力を持つ国王には皆がおべっかを使うが、陛下はつねに反対意見を求めておられた。日本では、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」といわれるが、その見本のような方だった。

いちばん大事なのは人間としてのあり方。武士道ではないが、人としてのあり方、心構えが、抜く剣の鋭さに出てくる。肝が据わった生き方をしていれば、きっと道は開かれます。